

第1部

總論

第1部 総論

1 『ふくい百年の大計・人づくり』 基本目標

家庭、地域、学校の連携による社会全体の教育力の向上

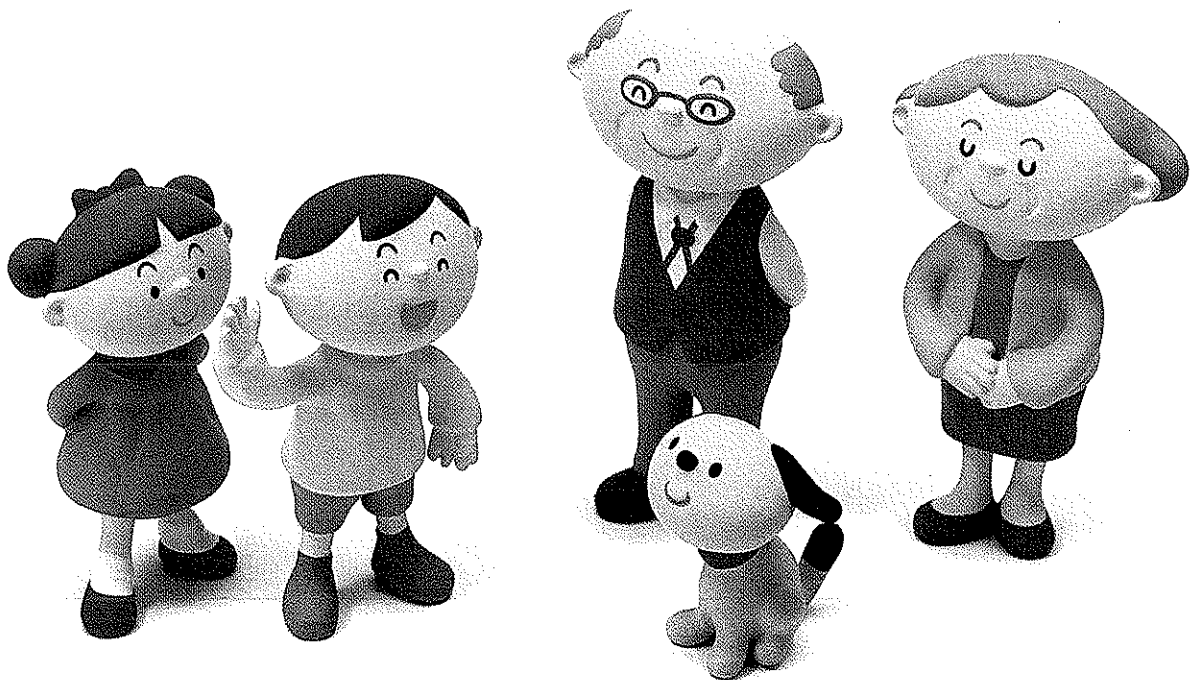
- ・ 人づくりは、国家百年の大計であり、国や県、地域づくりの基本です。この新しい世紀において、本県が夢と希望に満ち、光り輝いていくためには、人づくりが何よりも重要です。我が郷土福井県、そして日本と世界の未来はそれを担う子どもたちにゆだねられているのです。
- ・ 平成9年度に策定した福井県新長期構想「福井21世紀ビジョン」においても、5つの重点戦略の1つに「ふくい百年の大計・人づくり」を掲げ、「グローバルな視野を持ち、創造性と人間性、豊かな感性を備え」、「21世紀初頭の新しい福井県づくりのための様々な創造的活動の源泉となる人材」を育成すべき人材像として示しています。
- ・ 郷土の生んだ幕末の偉人橋本左内は、『啓発録』の中で「立志」として、社会のために貢献し立派な人物になろうとする目標の下に、これに向かって努力する志を立てることが大切であるとしています。21世紀を生きる福井の子どもたちが、こうした志を胸に抱いて大きくはばたいていくような教育が望まれます。
- ・ 人づくりは、よりよい社会を築き、それを未来に引き継ぐための社会全体の課題であり、したがって、地域社会全体で教育を担うことの重要性を改めて認識しなければならないと考えます。
- ・ 都市化、少子化、情報化といった社会変化に伴い、家庭や地域の状況が大きく変化し、学校もそのうねりの中にあります。こうした中で、家庭、地域、学校それぞれの現状と課題を踏まえ、個別の議論にとどめることなく、三者の連携など総合的な対応策を考える必要があります。
- ・ 特に、これからは、家庭、地域、学校という3つの教育機能に加えて、社会教育団体の連携や従来の組織形態にとらわれない「新しい教育ネットワーク」など第4の教育機能とも言うべき力、すなわち「第4の教育力」に対する期待が大きくなるものと考えます。
- ・ 更に、文化活動やスポーツを通じた地域づくり、人づくりは、子どもたちを健やかに大きく育て、同時に、あらゆる年齢層に広がりを持つものであり、その教育機能も社会全体の教育力の一翼を担う重要なものです。
- ・ こうしたことを踏まえ、本ビジョンの基本目標を「家庭、地域、学校の連携による社会全体の教育力の向上」とします。

第1部 総論

2 重点戦略

この基本目標を実現するため、次の5つを本ビジョンの重点戦略として具体的な施策を展開します。

- (1) 新世紀の福井県づくりを重視した「心の教育」を進めます。
- (2) 子どもの可能性を最大限に伸ばします。
- (3) 社会の一員としての自覚と倫理観を高めます。
- (4) 県民一人ひとりの学習、文化、スポーツ満足度を高めます。
- (5) 県民参加によって社会全体の教育力の向上をめざす県民運動を展開します。



第1部 総論

2 重点戦略

(1) 新世紀の福井県づくりを重視した「心の教育」を進めます。

ア 全国画一の考え方ではなく、本県の実情に即した心豊かな「学習福井」の創造をめざして、「福井の教育」を進めます。

「福井の教育」は、本県の実情に即して、福井の未来を担う心豊かでたくましい「福井人」の育成をめざす必要があります。

特に、規範意識や倫理観を高めること、他人に対する思いやりの心を持つこと、命を大切にすることなど、人として生きる上で基本となる心を育てる「心の教育」が最も重要であると考えます。

また、県民一人ひとりが生涯にわたって自ら学ぶという学習風土をつくり上げ、「学習福井」を創造していくことが大切です。

これまで教育分野においては、国が基準を設けてこれを全国一律に展開することが多く、県や市町村はこれに追随することで十分との認識が一般的であったと言えます。特に、義務教育については、その責任を国が負うという考え方が基本にあり、地方が自主性を十分に発揮する状況にはありませんでした。

しかしながら、近年の地方分権、規制緩和の流れの中で、地方のことはその地域の住民の意思に基づいて、それぞれの実情に即して行うべきとの考え方が強くなっており、本県独自の積極的な取り組みが期待されます。

イ 福井の未来に必要な教育内容を重視します。

「福井の教育」を進めるに当たっては、福井の将来にとって何が大切であるかを十分に見極め、そこに重点を置いて取り組むことが重要です。

例えば、「福井21世紀ビジョン」では、「科学技術・デザイン・情報立県の実現」を重点戦略に掲げており、科学に対する関心を高める理科教育、デザイン開発のできる人材を育成するためのデザイン教育、あらゆる分野で進む情報化に対応した情報教育など、本県の総合力を高めるという視点に立った教育を進めることが大切です。

ウ 福井を愛する心を育てます。

ふるさと福井、そして日本を愛する心をはぐくむことが大切です。それが自分自身を知ること、誇りを持って生きることにつながり、世界の人々と協調しながら国際社会の中で生きていく上でも重要です。

こうした心は、家族が慈しみ合う家庭生活や近隣の人々と心がふれあう地域の暮らしの中ではぐくまれるものと考えられます。

また、学校においても、美しい日本の言葉、郷土や日本の歴史と文化、身近な自然環境などを学ぶことにより、福井を愛し、日本を愛する心を培う必要があります。

第1部 総論

2 重点戦略

(2) 子どもの可能性を最大限に伸ばします。

ア 個性と才能を生かし、引き出す教育を進めます。

子どもたち一人ひとりの可能性を十分に伸ばすためには、個性と才能を見だし、生かしていくことが大切です。行きすぎた平等主義がその妨げになっているとの指摘もあり、厳しい社会の中でたくましく生きていくことのできる力をはぐくむためには、節度ある競争原理を導入することが必要と考えられます。

また、一人ひとりの潜在的な能力や才能を引き出していくためには、例えば、習熟度別学習の拡充など授業方法の見直し、目的意識と意欲を持って学ぶことができるようにする進路指導の充実等が重要です。

一方で、「個性の尊重」という名の下に、自由放任や集団生活における規律の欠如を招くことのないようにしなければならないと考えます。

イ 選択可能性の拡大を図ります。

子どもたちの可能性を伸ばす上では、一人ひとりの選択可能性を拡大し、多様な選択肢を用意することが必要と考えられます。

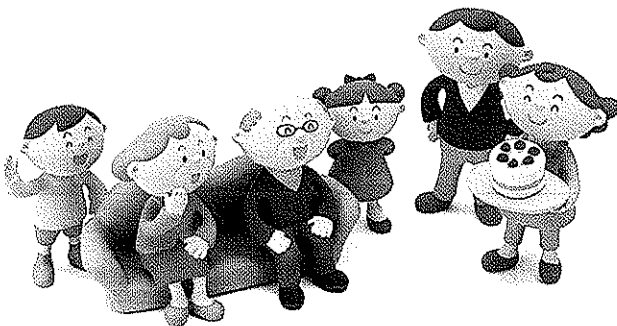
選択の自由は、一方でその責任も伴います。したがって、自らの意思と自らの責任で選択をするという自覚が大切であると考えます。

選択の自由を拡大することに伴う問題にも十分に配慮しながら、選択可能性を拡大することが求められます。

ウ 学習内容の基礎的・基本的な事項をすべての子どもに定着させることをめざします。

一人ひとりの能力を伸ばすこと、選択可能性を拡大することの前提として、少なくとも基礎的・基本的な学習内容については、すべての子どもたちが確実に身につけることができるように努力する必要があります。

新学習指導要領の実施に伴い、小・中学校では学習内容の約3割が削減されますが、まずは、すべての子どもたちがそれをマスターすることをめざし、同時に、プラスアルファを求める子どもたちにはそれに応えていくことが大切です。



第1部 総論

2 重点戦略

(3) 社会の一員としての自覚と倫理観を高めます。

ア 社会のルールを学ぶ体験活動を拡大します。

共同生活体験の中で、社会のルールを学ぶことが必要になっています。

都市化、少子化、情報化といった社会経済環境の大きな変化の中で、地域コミュニティや家庭の状況が変化しています。大人は生活の場の中心を自宅から離れた職場に移し、かつての「村の共同作業」といったものもほとんどなくなってきています。

こうしたことから、子どもたちが日常生活の中で家族以外の大人たちから社会のルールや人間関係について学ぶ機会も減っています。

そこで、共同生活の経験を体験学習という形で作り出すことが必要です。家族以外の人と日常生活をともにする機会を設け、その中で社会の一員としての自覚を促すような指導を行うことには極めて大きな効果があると考えます。

イ 家庭教育を担う親（保護者）に対する働きかけを推進します。

家庭教育の重要性が様々な形で言われています。教育改革国民会議の「教育という川の流れの、最初の水源の清冽な一滴となり得るのは、家庭教育である。」との言葉のとおりです。家庭が「心の教育」の出発点であり、これを担うのは親（保護者）です。しかし、これを現実のものにしていくのは必ずしも容易ではありません。

親（保護者）の中には、そうした認識が欠如している、あるいは、十分な家庭教育を行うことができない生活環境にある方々がいることも否定できません。啓発や情報提供・相

談といったことだけでは、解決できないケースも見られます。

親（保護者）に対して、これまでよりも一歩踏み込んだ意識づけが大切であり、また、「家庭は私的な領域であり、むやみに他人が入り込むべきではない」といったハードルを乗り越えて、社会全体で家庭や親（保護者）を支えていくことも必要になっています。

ウ 人間性や公共心を培う教育を充実します。

「心の教育」において、子どもたちの人間性、例えば、自分自身を律し、他人を思いやる心、命を大切に作る心などをはぐくんでいくことが重要です。

特に、21世紀は「共生の時代」と言われます。他人の心の痛みを理解し、助け合って生きていくことが大切であり、そうした「共に生きる」という視点に立った倫理観が求められます。

また、個人主義が利己主義に陥ることのないようにすべきであり、社会のために貢献する志や個人の利益を超えてみんなの幸せのために尽くす気持ちといった意味での公共心を育てることも重要であると考えます。

子どもたちを取り巻く問題の多くは大人社会の問題でもありますが、「大人が悪い、社会が悪い」と言っているだけでは問題を解決することはできません。

子どもに対する人間教育の充実と大人も含めた社会全体での取組みの両者が必要であると考えます。

第1部 総論

2 重点戦略

(4) 県民一人ひとりの学習、文化、スポーツ満足度を高めます。

ア 学習、文化、スポーツ活動の参加機会の拡大と情報提供の充実に努めます。

「福井21世紀ビジョン」の掲げる「生活満足度日本一」を実現する上で、県民一人ひとりが生涯にわたって学び、あるいは芸術文化やスポーツに親しむことのできる環境を整備していくことには極めて大きな意義があると考えます。

また、できる限り多様な媒体を活用し、求める情報が容易に入手できるような環境を整えることが必要です。

イ 学習、文化、スポーツ活動を通じて、活力ある地域づくり、人づくりを進めます。

学習、文化、スポーツ活動は、地域づくりと人づくりの両面で大きな役割を果たします。

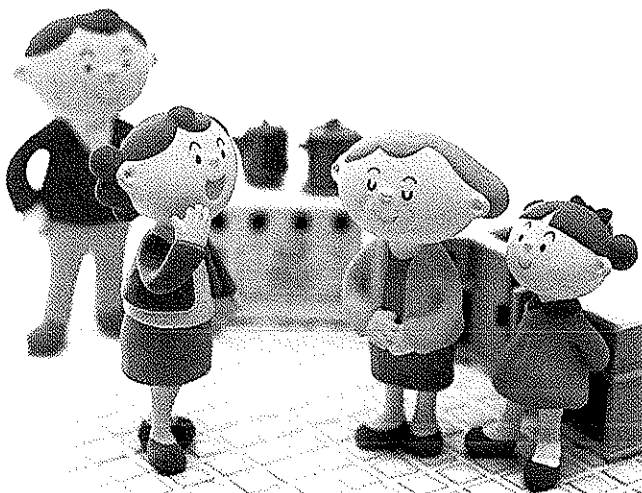
自ら講座や学習会に参加したり、文化やスポーツに親しむといった活動は、人々の交流を促進し、地域に活力を生み出すものです。

また、異なる年齢、多様な立場の人々との交流の中で、お互いに高め合い、ルールを守ることが学び、他人との円滑なコミュニケーションができるようになることが期待できます。

ウ 世界に通じる芸術家やトップレベルの競技者を育てます。

世界にはばたく人材を芸術文化やスポーツの世界で育てることが重要です。こうした分野での本県関係者の活躍は、県民に夢と希望を与え、同時に本県のイメージアップにとっても大きな効果があります。

また、そうした人たちの活躍は、芸術文化やスポーツへの興味と関心を高め、県民の自ら参加する意欲を喚起し、日々の暮らしをより豊かなものにするにつながるものと考えられます。



第1部 総論

2 重点戦略

(5) 県民参加によって社会全体の教育力の向上をめざす県民運動を展開します。

これらの重点戦略を具体化していくためには、できるだけ多くの県民が、理念と価値観を共有し、社会全体で子どもたちをはぐくんでいくという県民運動を展開することが必要であると考えます。

様々な教育関係者が連携の輪を広げ、あるいは新しい教育のネットワークを縦横にはりめぐらして、「福井の教育」を進めていくことが望まれます。

